

とし、作業用歩道を利用して戻る。  
 中ノ沢と北谷地沢の合流点より一〇  
 〇〇程下流で林道に出た。

(記・ 札)

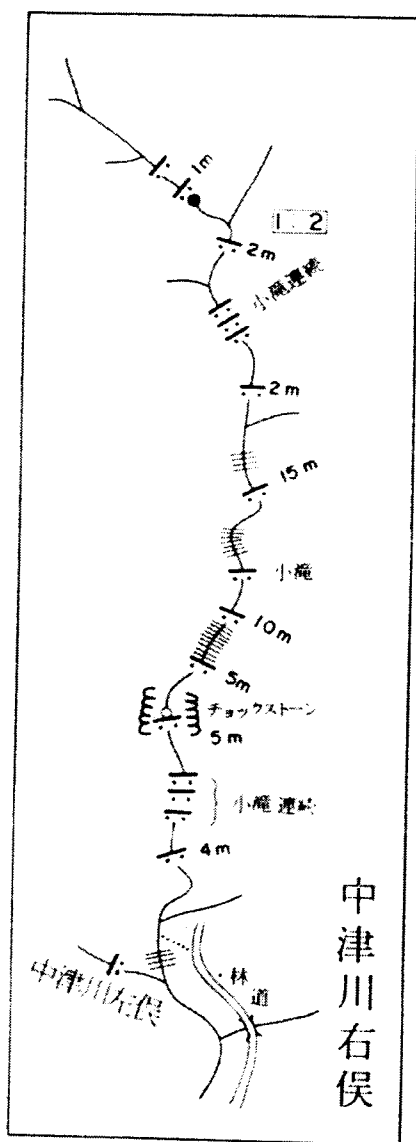
「タイム」ゲート(一四:一五)↓北  
 谷地沢出合(一四:三五)↓遡行  
 終了(一五:二〇)↓林道(一五:  
 五〇)↓ゲート(一六:〇五)

## 中津川右俣

上平 中津川右俣  
 一九八一年八月九日

摺上川の支流のなかでは、烏川と  
 この中津川が大きい。下流及び中流  
 部は営林署の林道がのび、ゆるやか  
 な流れとなっているが、上流部は等  
 高線の間隔が狭く、滝を期待しての  
 遡行である。

六時四五分福島発。八時一〇分に



中津川右俣

「におい」がする。しかしこの沢は、  
 水アカが多く、コケのついていると  
 ころもあって、油断できない。

まもなくF1四詰。これを越える  
 と小滝が続き、その先はゴルジュと  
 なる。以外に険悪だ。この先、F2  
 五詰、F3一〇詰とナメをはさんで  
 次々と出現する。茂庭の沢は当たり  
 はずれの差が大きいが、この沢は見  
 事当たりのようだ。

やがてF4一五詰。この沢で最も  
 大きな滝だが、登るのは難しくない。

は車デポ地へ。車は林道終点より五

〇〇〇程手前にデポした。林道は、  
 地図にあるよりさらに奥にのびてい  
 たが、最後の方は落石のため通行不  
 能となっていた。

八時三〇分入溪。水は冷たい。ま  
 た、木がうっそうとしており、滝の



中津川右俣：滝も楽に越してゆけた

る。

まもなく水量も  
少なくなり、滝も  
かからなくなった。  
九時五分、遡行  
を打ち切って、左  
手の尾根に登る。

(記・ 幸)

「タイム」 遡行開

始(八:三〇)

↓遡行終了(九:五五)↓尾根(一

〇:二〇)

このあと小滝の連続を通過し、二俣に出る。我々は、尾根一本左の沢の下降を予定していたので、左に入

## 中津川左俣右支沢

一九八一年八月九日

尾根上は見通しがきかず、現在地

が十分確認できないまま、一〇時一

〇分下降開始。結果的にはこれが失

敗で、予定していた中津川左俣本流

ではなく、右支沢の下降となつてしまつた。

尾根から一〇分も下ると、沢になる。まもなく一〇分の滝があり、このほかにも二、三の小滝があったが、特に問題となるようなところもなく、一一時に左俣本流に出る。

この先は左俣本流を下る。右岸には柚道(おそらく営林署の作業用道)

と赤の電線が、並行して走っていた。

しばらくは沢に倒木があり、歩みにくい。やがて踏跡は沢から離れてゆく。すると倒木もなくなり、歩きやすくなる。

小滝とナメが続く。コケが多いが、フリクションはよくきく。最後の右俣出合まじかの六分滝をクライミングダウンして、今日の行動を終える。

(記・ 下)

「タイム」 下降開始(一〇:一〇)↓